

令和 7 年度 目黒区立学校における不登校の状況について

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

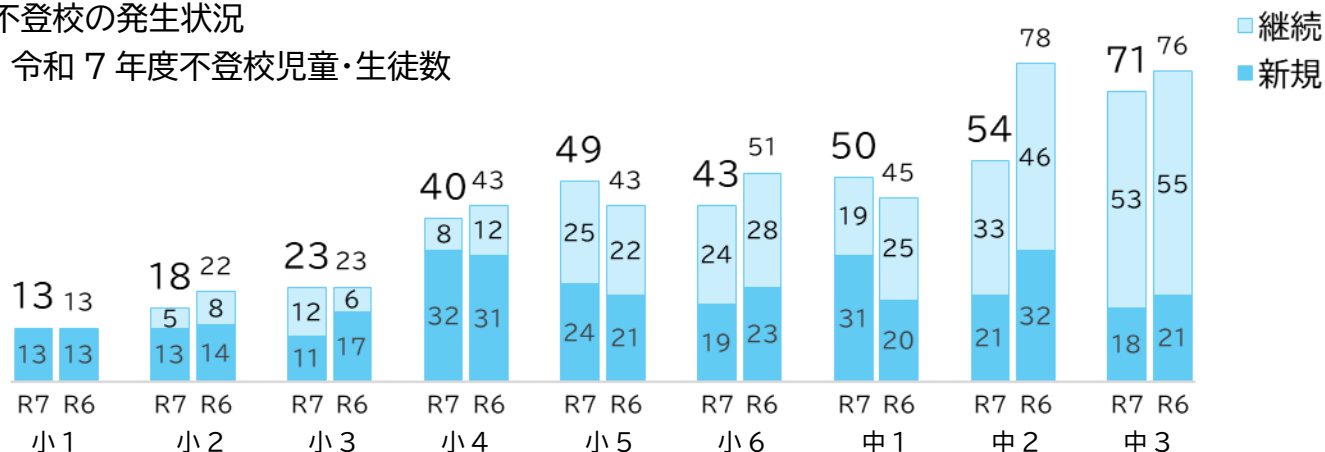
1 不登校児童・生徒の定義

当該年度の 4 月 1 日から 3 月 31 日までに、30 日以上欠席した児童生徒で、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。)をいう。

※「令和7年度 児童生徒の問題行動・不登校等生活指導上の諸問題に関する調査について」(文部科学省)

2 不登校の発生状況

(1) 令和 7 年度不登校児童・生徒数



(2) 不登校児童・生徒数の推移

年度	小学校							中学校			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計
R7	13	18	23	40	49	43	186	50	54	71	175
(新規)	13	13	11	32	24	19	112	31	21	18	70
(継続)	0	5	12	8	25	24	74	19	33	53	105
R6	13	22	23	43	43	51	195	45	78	76	199
(新規)	13	14	17	31	21	23	119	20	32	21	73
(継続)	0	8	6	12	22	28	76	25	46	55	126
R5	15	18	26	33	44	56	192	66	74	87	227
(新規)	15	16	15	20	23	28	117	47	31	19	97
(継続)	0	2	11	13	21	28	75	19	43	68	130
R4	10	17	22	28	37	38	152	51	82	66	199
(新規)	10	14	17	16	25	14	96	32	50	34	116
(継続)	0	3	5	12	12	24	56	19	32	32	83
R3	8	6	13	16	26	26	95	34	46	44	124
(新規)	8	4	9	13	22	18	74	28	26	20	74
(継続)	0	2	4	3	4	8	21	6	20	24	50
R2	6	6	8	10	14	20	64	35	40	35	110
(新規)	6	6	6	3	9	7	37	31	17	9	57
(継続)	0	0	2	7	5	13	27	4	23	26	53
R1	0	4	9	7	20	22	62	28	34	31	93
(新規)	0	3	7	5	13	13	41	23	15	16	54
(継続)	0	1	2	2	7	9	21	5	19	15	39

※新規:当該年度中に新たに不登校となった児童・生徒数

※継続:前年度以前から不登校であった児童・生徒数

(3) 継続率の推移

	小学校				中学校		
	区	東京都	国		区	東京都	国
R7	51.4%				60.3%		
R6	55.9%	68.8%	71.7%		64.3%	72.5%	77.10%
R5	65.8%	72.8%	75.2%		76.0%	80.2%	80.70%

※ 継続率 - 前回調査で不登校に計上された者のうち、今回調査でも計上された者の割合。

※ 令和 7 年度の「東京都」「全国」については令和 8 年 11 月上旬頃に公表予定

○ 継続率の算定方法(令和 7 年度の場合)

$$\text{小学校継続率} = \frac{\text{令和 7 年度小学 2 年生～6 年生の前年度からの継続者}}{\text{令和 6 年度小学 1 年生～5 年生の不登校者}}$$

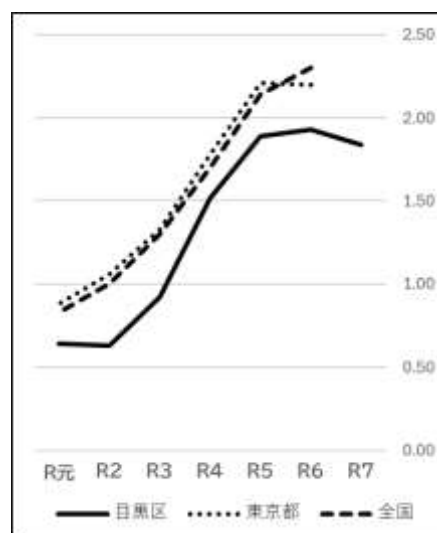
$$\text{中学校継続率} = \frac{\text{令和 7 年度中学 1 年生～3 年生の前年度からの継続者}}{\text{令和 6 年度小学 6 年生・中学 1・2 年生の不登校者}}$$

(4) 出現率の推移

(単位:%)

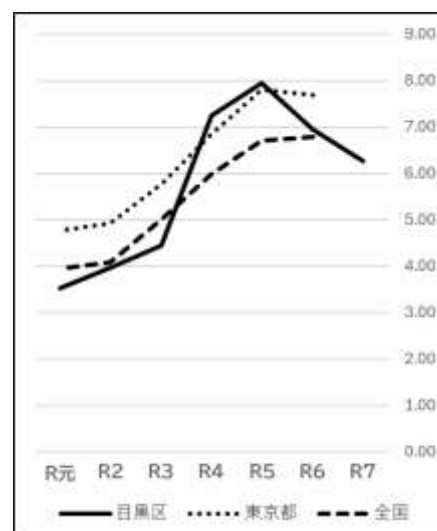
ア 小学校

校種	年度	目黒区	東京都	全国
小学校	R7	1.84		
	R6	1.93	2.20	2.30
	R5	1.89	2.21	2.14
	R4	1.52	1.78	1.70
	R3	0.92	1.33	1.30
	R2	0.63	1.06	1.00
	R元	0.64	0.88	0.83



イ 中学校

校種	年度	目黒区	東京都	全国
中学校	R7	6.26		
	R6	6.94	7.68	6.79
	R5	7.95	7.80	6.71
	R4	7.24	6.85	5.98
	R3	4.44	5.76	5.00
	R2	3.96	4.93	4.09
	R元	3.53	4.76	3.94



※ 令和 7 年度の「東京都」「全国」については令和 8 年 11 月上旬頃に公表予定

3 不登校の主な要因・背景(学校が把握している事項)【複数回答可】

単位:件

※()内は不登校者数に対する割合

No.	項目	小学校		中学校	
		R7	R6	R7	R6
1	いじめの被害	9 (5%)	12 (6%)	3 (2%)	3 (2%)
2	いじめ被害を除く友人関係	34 (18%)	47 (24%)	33 (19%)	42 (21%)
3	教職員との関係	11 (6%)	19 (10%)	9 (5%)	8 (4%)
4	学業の不振や多くの宿題の未提出	30 (16%)	29 (15%)	36 (21%)	51 (26%)
5	学校のきまり等	8 (4%)	10 (5%)	5 (3%)	5 (3%)
6	転編入学、進級時の不適応	6 (3%)	12 (6%)	18 (10%)	22 (11%)
7	家庭生活の変化	22 (12%)	21 (11%)	19 (11%)	14 (7%)
8	親子の関わり方	39 (21%)	33 (17%)	23 (13%)	16 (8%)
9	生活リズムの不調	51 (27%)	44 (23%)	43 (25%)	46 (23%)
10	あそび、非行	3 (2%)	4 (2%)	7 (4%)	6 (3%)
11	学校生活に対してやる気がでない	69 (37%)	80 (41%)	66 (38%)	80 (40%)
12	不安・抑うつ	42 (23%)	53 (27%)	39 (22%)	48 (24%)
13	障害に起因する特別な配慮	20 (11%)	24 (12%)	16 (9%)	14 (7%)
14	個別の配慮(13以外)	13 (7%)	31 (16%)	9 (5%)	26 (13%)
15	「1」～「14」に該当しない	13 (7%)	0 (0%)	4 (2%)	0 (0%)

【要因・背景で多かった項目】

	No.	項目	件数	割合
小学校	1	学校生活に対してやる気がでない	69	37%
	2	生活リズムの不調	51	27%
	3	不安・抑うつ	42	23%
	4	親子の関わり方	39	21%
	5	いじめ被害を除く友人関係	34	18%
中学校	1	学校生活に対してやる気がでない	66	38%
	2	生活リズムの不調	43	25%
	3	不安・抑うつ	39	22%
	4	学業不振や多くの宿題の未提出	36	21%
	5	いじめ被害を除く友人関係	33	19%

資料 不登校の主な要因・背景の具体例

No.	項目	具体例
1	いじめの被害	いじめ被害の事実を把握した情報や児童・生徒や保護者からいじめ被害に関する相談があった
2	いじめ被害を除く友人関係	仲違い、友人関係が極端に少ない、友人間に関する情報や相談があった
3	教職員との関係	教職員への反抗や反発や教職員からの激しい叱責や注意に関する情報や相談があった
4	学業の不振や多くの宿題の未提出	成績の不振、授業がわからない、試験が嫌い、宿題が未提出等の事実があった
5	学校のきまり等	制服を着たくない、給食を食べたくない、学校行事に参加したくない等の相談があった
6	転編入学、進級時の不適応	転編入学をしたくなかった、クラス替えが自分の願う学級編成や担任ではなかった等に関する相談があった
7	家庭生活の変化	両親の離婚、親の単身赴任、家族の病気等に関する情報や相談があった
8	親子の関わり方	親の叱責、親の言葉・態度への反発、親の過干渉・放任等に関する情報や相談があった
9	生活リズムの不調	朝起きられない、夜眠れない、就寝起床時刻が定まらない等に関する情報や相談があった
10	あそび、非行	非行グループに入り非行行為を行うことに関する情報や相談があった
11	学校生活に対してやる気がでない	無気力で登校したくないことに関する相談があった
12	不安・抑うつ	登校の意志があるが、漠然とした不安や気持ちの落ち込みにより登校しない(できない)ことに関する相談があった
13	障害に起因する特別な配慮	特別支援学級への在籍、通級指導や特別支援教室の利用、特別支援教育支援員の配置、その他の合理的配慮に関する求めや相談があった
14	個別の配慮(13以外)	日本語指導が必要、特定分野に特異な才能を有する。性に関する違和感、感覚過敏等に関する求めや相談があった
15	「1」～「14」に該当なし	本人や保護者に確認した上で、上記のような情報や相談を把握していない

4 支援状況【複数回答可】

単位:件

※()内は不登校者数に対する割合

区分		小学校		中学校	
		R7	R6	R7	R6
学校外	① 学習支援教室(めぐろエメール)	30 (16%)	43 (22%)	29 (17%)	51 (26%)
	② めぐろ学校サポートセンター教育相談・SSW	67 (36%)	86 (44%)	36 (21%)	76 (38%)
	③ 児童相談所 こども家庭センター	21 (11%)	16 (8%)	15 (9%)	12 (6%)
	④ 保健所 精神保健福祉センター	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	⑤ 病院 診療所等	43 (23%)	50 (26%)	28 (16%)	36 (18%)
	⑥ 民間団体・施設 フリースクール等	27 (15%)	27 (14%)	16 (9%)	19 (10%)
	⑦ 障害者支援施設	2 (1%)		0 (0%)	
	⑧ 上記以外の施設	3 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	①～⑧の合計	194	222	124	194
学校内	⑨ 養護教諭による専門的な指導	61 (33%)	73 (37%)	31 (18%)	39 (20%)
	⑩ 養護教諭以外の教職員による相談・指導	180 (97%)	154 (79%)	166 (95%)	162 (81%)
	⑪ スクールカウンセラーによる専門的な指導	110 (59%)	119 (61%)	72 (41%)	73 (37%)
	⑫ 校内別室指導	4 (2%)		54 (31%)	
	⑨～⑫の合計	355	346	323	274
総計		549	568	447	468
上記①～⑫による相談・指導を受けていない		2 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	2 (1%)

※⑦⑫については令和7年度より集計開始

【支援状況で多かった項目】

	No.	学校内・外	指導相談先	件数	割合
小学校	1	学校内	養護教諭以外の教職員による指導・相談	180	97%
	2	学校内	スクールカウンセラーによる専門的な指導	110	59%
	3	学校外	めぐろ学校サポートセンター教育相談・SSW	67	36%
	4	学校内	養護教諭による専門的な指導・相談	61	33%
	5	学校外	病院、診療所等	43	23%
中学校	1	学校内	養護教諭以外の教職員による指導・相談	166	95%
	2	学校内	スクールカウンセラーによる専門的な指導・相談	72	41%
	3	学校内	校内別室指導	54	31%
	4	学校外	めぐろ学校サポートセンター教育相談・SSW	36	21%
	5	学校内	養護教諭による専門的な指導・相談	31	18%

5 支援の成果と課題

(1) 登校状況が改善された児童・生徒数

※()内は不登校者数に対する割合

	小学校	中学校	合計
R7	47 (25%)	35 (20%)	82 (23%)
R6	62 (32%)	37 (19%)	99 (25%)
R5	64 (33%)	50 (22%)	114 (27%)
R4	38 (25%)	28 (14%)	66 (19%)
R3	28 (29%)	21 (17%)	49 (22%)
R2	7 (11%)	6 (5%)	13 (7%)
R元	4 (6%)	7 (8%)	11 (7%)

(2) 効果があった学校の取組【複数回答可】

単位:件

()内は、前年度の件数

内容	小学校	中学校	合計
① 研修会など全教職員で共通理解を図った	21 (20)	11 (16)	32 (36)
② すべての教職員が当該児童・生徒とのふれあいを多くするなどして学校全体で指導に当たった	11 (13)	4 (7)	15 (20)
③ 教育相談担当教員が専門的に指導を行った	2 (4)	5 (3)	7 (7)
④ 養護教諭が専門的に指導に当たった	6 (10)	4 (3)	10 (13)
⑤ スクールカウンセラーが専門的に指導に当たった	12 (25)	11 (9)	23 (34)
⑥ 病院・診療所との連携をした	3 (6)	4 (3)	7 (9)
⑦ 友人関係を改善するための指導を行った	6 (11)	3 (4)	9 (15)
⑧ 授業方法の改善、個別指導など分かる授業の工夫をした	4 (7)	0 (0)	4 (7)
⑨ 本人が意欲をもって活動できる場を用意した	18 (24)	6 (6)	24 (30)
⑩ 保健室等特別な場所に登校させて指導にあたった	8 (15)	15 (8)	23 (23)
⑪ 登校を促すために、電話をしったり迎えに行ったりした	13 (20)	7 (9)	20 (29)
⑫ 家庭訪問を行い、相談に乗る等様々な指導・援助をした	4 (3)	3 (1)	7 (4)
⑬ 保護者の協力を求め、家庭生活等の改善を図った	6 (6)	3 (0)	9 (6)
⑭ サポートセンター(エミール)との連携を図った	3 (10)	3 (2)	6 (12)
⑮ 特別支援教室等を利用した	3 (3)	2 (1)	5 (4)
⑯ その他	1 (4)	1 (7)	2 (11)
合計	121 (181)	82 (79)	203 (260)

【効果があった学校の取組で多かった項目】

	No.	項目	件数	割合
小学校	1	研修会など全教職員で共通理解を図った	21	11%
	2	本人が意欲をもって活動できる場を用意した	18	10%
	3	登校を促すために、電話をしったり迎えに行ったりした	13	7%
	4	スクールカウンセラーが専門的に指導に当たった	12	6%
	5	すべての教職員が当該児童・生徒とのふれあいを多くするなどして学校全体で指導に当たった	11	6%
中学校	1	保健室等特別な場所に登校させて指導にあたった	15	9%
	2	研修会など全教職員で共通理解を図った	11	6%
	2	スクールカウンセラーが専門的に指導に当たった	11	6%
	4	登校を促すために、電話をしったり迎えに行ったりした	7	4%
	5	教育相談担当教員が専門的に指導を行った	5	3%